



# ベクトル合わせ

パシフィックコンサルタンツ株式会社／国土基盤事業本部／  
上下水道部／施設再生推進室／技術課／課長

平野一澄



## 1. はじめに

皆様は「日本人の知らない日本語」という漫画をご存知でしょうか？その本には、日本語学校教師と外国人生徒がやりとりする話はいくつかありますが、その中の1つに、先生が生徒に作文を提出させる話があります。作文の題は自由だと生徒に告げた先生でしたが、ある生徒は、「自由とは」という題名で作文を提出します。その作文は「社会主義国家にとって自由とは何か。ルソーは国家・・・」と書き出してあり、それを見た先生は、「誰がそんな壮大なテーマで作文を書けと言った？」と驚愕するシーンがあります。

今回、会員寄稿の執筆要綱に、テーマは自由と拝見した際、上記の話思い出し、思い出し笑いをした次第です。もちろん自分には「自由」について論説できる程の力量はありませんが、先生と生徒の作文についてベクトルが合ってなかった、という視点を元に、「ベクトル合わせ」に関する私の経験と考えを記します。

## 2. メーカー時代の思い出

### (1) オゾン発生器蓋の再製造

私は、社会人当初から設計コンサルタント業務に従事しておらず、重電メーカーでオゾン発生装置及び高度処理プラント設備のエンジニアリング業務に従事していました。オゾン発生器は、ステンレス製の第二種圧力容器という特徴があり、製造原価が高いものです。維持管理上、オゾン発生器の内部を確認するには発生器の蓋に覗き窓をつけるのですが、蓋に窓をつけると加工費が余分にかかり製造原価が上がるため、原価管理に留意しなければなりません。

まだ若手の頃、客先とどの位置に覗き窓をつけるか打ち合わせをしていたのですが、短納期だったため、承諾前に製造を開始せざるを得なかった事情がありました。製造開始後、こちらから提出した承諾願い図から、覗き窓の位置変更がされた承諾図が返却されたため、発生器蓋の再製造をする羽目になり、数千万円オーダーでロスコストが発生する事態に陥りました。

当時の客先とのやりとりを振り返ると、承諾願い図が返却される前に製造を開始したのがロスコスト発生直

接の原因なのですが、窓の位置について細かく調整できていなかったこと、要は、客先とベクトル合わせができていなかったことが真の原因だと考えています。

### (2) 事業部長との懇親会

これも若手の頃の話です。当時在籍していたメーカーは、私が入社した年度（平成一桁）には、既に育児休業、時間短縮勤務制度を導入しており、今でいう「女性活躍」に向けて取り組みを始めていたところでした。また、所属していた事業部長は、現場（経営層や管理職以外）と話をする事に心を砕いていた方で、自分の家でホームパーティーを開いたり、競馬ツアーを企画して若手を連れて行ったりして、若手の話をよく聞く方でした。

そんな中、学校推薦で入社したものの、自分が何者になれるのか、また、具体的な企業人としてのイメージが全く沸かない中、会社の施策も自分の業務にも全く興味を持ってない日々を何年か過ごしていました。

ある時、件の事業部長との懇親会の席で、事業部長から、「境さん（←旧制）は、結婚や出産しても働き続けるのか？」と聞かれました。その時、間髪入れず「分かりません」と即答しました。自分の中で具体的なイメージが無かったのだから、正直な回答ではあるのですが、その時、事業部長に困った顔をされてしまいました。せめて嘘でも「続けたいと思いますが、まだ決心しきれません」や、「辞めた人が多いと聞いており、自分でも続けられるのか不安があります」等と回答していれば、要は、何らかのベクトルを発していれば、事業部長もそのベクトルから話題を広げて話を続けることができただろうに、ベクトルを出しもせず、申し訳無いことをしたなど、今でも反省しています。

今の若手が、「〇〇のスペシャリストになりたいです」や「〇〇で社会に貢献したいです」と話すのを聞くと、自分が不真面目な若手だった分、余計にその真面目さに感心します。また息子達の話聞いても、高校・大学時代からインターンシップ制度や就職支援が充実しており、私達の就職の時代よりも具体的に働くというイメージを持たせやすい仕組みになっているようです。

このように、自分の進む方向性について、何らかのベクトルを発しやすい仕組みができていることは、周囲との

会話を広げ、その会話から自分の思考をより拡張するチャンスを得やすいという点で、良い傾向であると考えています。

### 3. ベクトル調整は一生続く

#### (1) 人生を決定するのは誰か？

メーカ時代の知り合いとの会話の中で、件の事業部長の話題になったのですが、ある方から「そういえば境さんも、あの人に人生を決められたクチだな」ということを言われました。配属先の決裁権は事業部長であったため、そのような発言となったのです。その発言を聞くまで、事業部長に人生を決められたとは露ほども思いませんでした（でなければ、今ここで会員寄稿の執筆なんてしていませんよね）。それと同時に、そういう価値観を持つ人もいるということを知りました。

私の意見は、自分の希望どおりとなるか否かは「ある時点」での出来事の1つに過ぎず、人生が無数の小さなベクトルの連続であるという捉え方が出来れば、例え他者によって違うベクトルを刻まれる出来事に遭遇しても、その後のベクトル調整は、他でもない自分で行うものだ、というものです。

もちろん先の例でいえば、配属先の決定は人生に重大な影響を及ぼす出来事ではあります。ただ、望まない配属先で仕事をしている人でも、自分の意向に関わらず、専門スキルが身につけていきます。それは紛れもなく、その方の大事な宝になり、その宝をどう使うかも、その人が決定するものだと考えます。

そのため、自分の人生のベクトル調整を他人に委ねてしまうのは、宝を粗末に扱うことに繋がるため、あまりにも勿体無いことだと思います。また私の職務的な立場では、その宝を「宝」と感じてもらうか、どう活用させるか、どう拡張していくか、等、ベクトルをどう導くかを考えていかなければならないと感じています。

#### (2) ベクトル調整のスキル

メーカを退職し、縁があって、7年程前からコンサルタント業務を行い、現在に至ります。客先と協議を行い、向かうべきベクトルを合わせられた時の達成感と遣り甲斐は、決定された仕様で製造物を納品することが主体業

務であったメーカ時代にはなかった感触であり、大変魅力のある業務に従事できて幸運だと考えています。ただコンサルタント業務の場合、整理した情報からどう方向性を位置付けるかという点において、文章や図表で表現する事に相当気を割かなければならない点においては、転職後、最も苦勞したところでもあります。

さて、ここまで偉そうに書いておきながら、自分の元来の特性か、ベクトル調整をすることは長年の間、苦手としています。

最近になって、これがベクトル調整スキルの向上に役立つのではないかとと思われる漫画を見つけましたので、この場をお借りしてご紹介します。

「やっぱり、それでいい。」

精神科医：水島広子、漫画家：細川紹々

ビジネス本ではないので、拍子抜けした方も多と思います。しかし、この本の冒頭に「人と関わることで一番大事なことは何ですか？」と、私が考えるコンサルタント業務の本質、「人と人との関わりで成果品と作り上げる」という所に直結する質問が書かれており、その回答ややり方が示されている点において、一読の価値があると考えます。

多忙なコンサルタント業務をしている中で、頭に入りやすい漫画方式になっているところ、電子版（Kindle）があることも、紹介すべきポイントとなります。

### 4. おわりに

弊社のホームページでは、ダイバーシティ経営に関する紹介を行っています。その中で「石垣は多様な石で組むから強い」という言葉が出てくるのですが、その石垣は、石が持つ多方向かつ強弱のベクトルの組み合わせで成り立つものとなります。

人とのベクトル合わせの難しさは、石と違い、その個人がその時々によって方向も強弱も変わることです。それでも、これまで諸先輩方がそうしてきたように、約束された正解の無い時代の中で、綿々たるベクトル合わせにより、未来を作り上げていきたいと考えています。